

Cared. jp の使い方：組織対応(企業・大学/教育機関)

*危機管理で重要なのは、有事の際の情報をいかに早く、必要なところに伝えられるかである。Cared. jp アプリは、国内外での危機に面したときに同時複数の方法(Eメール、SMS、LINE、Facebook など)で様々な安否確認情報を知らせることができるアプリである。安否情報をいち早く複数の方々が確認できる。Cared. jp からの情報は、被災者の状況を理解し、位置を確認することができることから、その情報を海外では、現地の日本大使館・領事館、保険会社、危機管理会社に知らせ、また屋内では自治体・警察・消防に通報し、救援活動に着手してもらうことができる。送信する内容(情報)は、テキストメッセージと写真、位置情報、現地連絡先、緊急連絡先、音声(パニックボタン利用の場合)などである。

■現状分析

・国外

企業が、電話・メールで安否を確認。その先は、ルールは明確ではない。

・国内

大地震の場合、ほとんどの職員が被災すれば、自分の生命維持に動くため、役職員の安否確認は数日以上遅れる。






外国人の場合、相談相手がいなくなる。相談先と連絡がつかない。この先どうすればいいのか、わからない。

共通：食糧・日用品の確保、病人の対応困難など詳しく伝える手段ないので、判断が難しい


これらを改善するために考案したものが「C a r e d . j p」である。

□企業向け 対象者：海外出張者・駐在員

	安否確認事由	危機対応の流れ	備考
安否確認の場合	災害・事故・犯罪、病気など	① 危機発生(フィールド) ↓ 安否確認メール送信(安全か否かを報告) ・管理者(所属企業の人事・総務・事業本部等)安否確認 (現地支社、本社での対応)未確認職員への連絡	Eメール、SMS、LINE、 Facebook に送信 *グループ対応可能 *企業から世界の地

		<p>② 有事の際、Cared.jp の安否確認メールを領事館に転送  (現地支社、本社での対応)</p> <p>③ 依然確認とれない役職員情報を外務省に報告  *在外公館と情報を共有し、現地確認を行う</p> <p>④場合によっては、本社から現地入り</p>	<p>域、国を指定して役職員にメッセージを送信可</p> <p>☞保険会社、危機管理会社に連絡</p>
パニック・ボタン利用	大災害、大惨事、テロなど	<p>① テロなど急な危機発生(フィールド)  パニック・メール送信 (安全か否かを報告) ・管理者 (企業の本社・支社、大学の国際課・学部・研究科等) 安否確認 (パニックメール発動) (学部・研究科での対応) 未確認学生への連絡</p> <p>② 有事の際、Cared.jp のパニック・メールを領事館に転送  (現地受け入れ大学・教育機関、宿泊ホテルなどと連絡)</p> <p>③ 確認とれない学生を外務省に報告(パニックメール転送)  *在外公館と情報を共有し、現地確認を行う</p> <p>④場合によっては、大学から現地入り</p>	<p>Eメール、SMS、LINE、Facebook に送信</p> <p>*グループ対応可能</p> <p>*大学から世界の地域、国を指定して学生にメッセージを送信可</p> <p>☞危機管理会社と情報共有</p>

□企業向け 対象者：国内出張者・支社・支店の職員・外国人労働者 (含む技能実習生)

	安否確認事由	危機対応の流れ	備考
安否確認の場合	災害・事故・犯罪、病気など	<p>① 日本国内における危機発生(フィールド)  安否確認メール送信 (安全か否かを報告) : 多言語使用 ・管理者 (企業) 安否確認報告 未確認役職員への連絡 Cared.jp の管理者画面からメッセージを送信</p>	<p>*グループ対応可能</p> <p>*国内の地域を指定してメッセージを送信可</p>

		② 有事の際、Cared.jp の安否確認メールを在留公館に転送 ↓ (出身大学・家族に安否確認メール送信) ③ 確認とれない外国人職員の出身国在留交換に報告 ↓ *在留公館と情報を共有する ④場合によっては、企業が現地入り	
--	--	--	--

□大学・学校法人向け 対象者：海外にいる教職員・学生

	安否確認事由	危機対応の流れ	備考
安否確認の場合	災害・事故・犯罪、病気など	① 危機発生(フィールド) ↓ 安否確認メール送信(安全か否かを報告) ・管理者(大学の国際課・学部・研究科等)安否確認 (学部・研究科での対応)未確認学生への連絡 ② 有事の際、Cared.jp の安否確認メールを領事館に転送 ↓ (現地受け入れ大学・教育機関と連絡) ③ 依然確認とれない学生を外務省に報告 ↓ *在外公館と情報を共有し、現地確認を行う ④場合によっては、大学から現地入り	Eメール、SMS、LINE、 Facebook に送信 *グループ対応可能 *大学から世界の地域、国を指定して学生にメッセージを送信可 ☞危機管理会社と情報共有
パニック・ボタン利用	大災害、大惨事、テロなど	① テロなど急な危機発生(フィールド) ↓ パニック・メール送信(安全か否かを報告) ・管理者(大学の国際課・学部・研究科等)安否確認(パニックメール発動) (学部・研究科での対応)未確認学生への連絡 ② 有事の際、Cared.jp のパニック・メールを領事館に転送	Eメール、SMS、LINE、 Facebook に送信 *グループ対応可能 *大学から世界の地域、国を指定して学生にメッセージを送信可

		<p>↓ (現地受け入れ大学・教育機関、宿泊ホテルなどと連絡)</p> <p>③ 確認とれない学生を外務省に報告(パニックメール転送)</p> <p>↓ *在外公館と情報を共有し、現地確認を行う</p> <p>④場合によっては、大学から現地入り</p>	☞保険会社、危機管理会社に連絡
--	--	--	-----------------

□大学・学校法人向け 対象者：国内にいる教職員・学生（含む外国人留学生研究者）

	安否確認事由	危機対応の流れ	備考
安否確認の場合	災害・事故・犯罪、病気など	<p>① 日本国内における危機発生(フィールド)</p> <p>↓ 安否確認メール送信 (安全か否かを報告)：多言語使用</p> <p>・管理者 (企業、大学の国際課・学部・研究科等) 安否確認報告 (学部・研究科での対応) 未確認学生への連絡</p> <p>Cared. jp の管理者画面からメッセージを送信</p> <p>② 有事の際、Cared. jp の安否確認メールを在留公館に転送</p> <p>↓ (出身大学・家族に安否確認メール送信)</p> <p>③ 確認とれない学生を出身国在留交換に報告</p> <p>↓ *在留公館と情報を共有する</p> <p>④場合によっては、大学から現地入り</p>	<p>*グループ対応可能</p> <p>*大学から世界の地域、国を指定して学生にメッセージを送信可</p> <p>☞保険会社、危機管理会社に連絡</p>
パニック・ボタン利用	大災害、大惨事、テロなど	<p>① テロなど急な危機発生(フィールド)</p> <p>↓ パニック・メール送信 (安全か否かを報告)</p> <p>・管理者 (大学の国際課・学部・研究科等) 安否確認 (パニックメール発動)</p> <p>(学部・研究科での対応) 未確認学生への連絡</p> <p>② 有事の際、Cared. jp のパニック・メールを在留交換に転送</p>	<p>Eメール、SMS、LINE、Facebook に送信</p> <p>*グループ対応可能</p> <p>*大学から世界の地域を指定して教職員・学生にメッセージを送信</p>

		<p>↓ (送り出し大学・教育機関と連絡)</p> <p>③ 確認とれない学生を外務省に報告(パニックメール転送)</p> <p>↓ *在留公館と情報を共有し、現地確認を行う</p> <p>④場合によっては、大学から現地入り</p>	<p>可</p> <p>☞危機管理会社と情報共有</p>
--	--	--	------------------------------